

いっぽん!

平成18年 第5号

■発行 伊藤ふみひろ後援会広報委員会 ■発行責任者 伊藤文博 ■連絡先 Tel.025-562-3988
■公式ホームページ URL <http://www.fumihiro-ito.com> ■E-mail f-ito@fumihiro-ito.com

9月定例会

31議案1諮問4報告1陳情請願が審議され、可決されました。H18第4号で初日を終わっての主なニュースをお知らせしましたが、追加のニュースをお知らせします。

「地域防災計画」が策定されました。

課題は「自主防災組織」の確立でしょう。自主防災リーダーの育成も大きな鍵となります。3助といわれる

- 自助
- 互助
- 公助

のうち、「自助」と「互助」の結果たす役割が緊急の場合には大切になります。まずは、市民の防災意識高揚を図らなくてはなりませんね。

福祉有償運送ボランティアについて

糸魚川市でも、福祉有償運送運営協議会での協議がまとまり、



この10月1日よりサービスが提供されています。この段階での関心は、福祉有償運送における管理、運営体制です。適正な運用がなされて、一般旅客運送事業者と共存してのサービスの提供が提供され、必要な方々の足として活用されることを期待しています。

男女共同参画計画の策定について

国・県の新たな方針により、新しい「男女共同参画計画」を策定するための「糸魚川市男女共同参画計画策定委員会」が設置されます。国の計画では10のポイントを上げています。糸魚川市においても、真に男女がお互いを大切にする社会作りが出来ればと願っています。市民の意識づくりが大きなポイントとなるでしょう。

林道橋立上路線災害復旧工事の状況

林道橋立上路線の大平峠から少し上路よりで、大規模な地すべりによる災害が発生し、国の災害査定を受けて、災害復旧工事が平成20年度までに行われます。

奥地に向かって進んでいくと突然海が見えるという、全国でも珍しい林道を観光開発に活かさないものでしょうか。

北陸新幹線工事について

能生川に架かる橋梁工事と大和川地区の高架橋工事が発注になりました。市内の新幹線工事の発注残は、駅舎周辺と、明かり部分の残りも僅かとなりました。青海地域・田海、今村新田、須沢地区での工事も始まりました。2014年の開通に向けて、工事が行われます。



伊藤武作

一般質問を終えて

今定例会では次の考え方で一般質問を行いました。

1. 行政改革の確実な推進について

◆キーワード①【手順】

「手順」ということに着目して行政改革の実践について質問しました。

計画を確実に実行するには、計画の中のそれぞれの実行項目について、5W1Hといった具体的要素を捉えた「手順」が必要です。

これにより計画立案（手順の確立）を、モレなくダブリなく行なうことができます。

現在の「行政改革実施計画」には、5W1Hの具体的手順が盛り込まれていないため、実行も見直しも確実には出来にくい



と考えられます。【手順】の確立を行うべきと提言しました。行政は様々な「事業」を行うことが仕事です。住民サービスという、結果を計測しにくい事業であるために、「事業」を行うことで仕事が終わった感覚になる傾向がありますし、場合によっては、「計画」策定で終わってしまう場合さえあると言われていています。

◆キーワード②【継続的改善】

「行政特別委員会」で助役は「行政改革はエンドレスです」と言いましたが、正にその通りで、エンドレスに改革を続けていくためには、継続的改善のシステムが必要です。

日常業務の中で改善する。部署内の見直しで改善する。庁内全体で改善するという何重でものサイクルにより、日常的に改善処置が求められ、実施することの出来るシステム作りが必要です。

やらなければならぬという考え方だけではなく、やらなければならぬシステムを作り上げるべきだと思います。システムが改善を要求し、やらなければならぬ仕組みづくりをしなないと、感覚的な業務運営では確実な行政改革は困難です。

行政改革に思う

行政改革とは、心豊かな地域づくりでありと思います。安らぎを感じさせる風土を活かした改革を実行し、住民が平等に夢に挑戦できる地方の時代にふさわしい安心・安全の活気に満ちた新糸魚川市づくりを期待しています。

まず、手がけることは、職員意識改革です。公務員であることの意味を再認識して、縦割り行政を廃止して、縦横無尽の行政に再編成することです。

次に、事業評価制度を導入して無駄を無くし、公共投資に市民の意見を取り入れて、効率の良い公共投資を行うことです。

改革の推進には、計画立案手順が重要で、感覚的な運営では、改革は元の木阿弥となります。

市政（行政改革）の大きな鍵は、◇自助◇互助◇公助の三助に尽きると思います。

糸魚川市青海

小野誠治

2. 学校教育の地域間競争及び中学校各種競技大会について

◆キーワード①

【教育環境の社会的影響】

直江津に中・高一貫教育校が出来ます。教育環境の変化、と

りわけ上越市地域との格差が糸魚川市に及ぼす影響は大きいでしょう。

教育環境問題がどの部分に影響を与えるか。本気で分析し、今後の対策を考えていかなないと、根本的な市民感情に関わる部分で後れを取ってしまうことになりかねません。

例えば、若い人が住宅を新築する。北陸自動車道の通勤割引も出来たし、上越市も選択肢に入ってくる。子育ての問題も教育の問題も考慮して・・・となれば、上越市を選択する人も増えてくるでしょう。

◆キーワード②

【教育現場で起きている問題の把握】

教育の現場では、上越市が大きい枠になったことで郡市大会の開催に大きな影響が出ています。現場での問題は何か、県の対応はどうかを把握して県教育委員会と話し合ってください。

教育現場で起きている諸問題について糸魚川市教育委員会が、現状把握が出来ているかが大きなポイントです。全国で、いじめの問題を教育委員会が把



握っていたかどうかについて問題視されていますが、その点を含めて、今一層の努力が望まれます。

教育の地域格差を痛感！

先日、中高一貫教育校の説明を聞き、大学受験の現実を知らされ愕然としました。新潟県の大学進学率が低いこと、特に国立大学への進学率が低いということでした。地方だからこそ費用の面からも国立が多いと思っていたのですが、望んでも学力が無ければ入れませんと言われ納得。

この学校では大学受験に向け6年間を使って徹底したカリキュラムを組むとのこと。

当地の中学で、はつきりと大学受験を目標とした授業をしていますという学校があるのでしょうか。その良し悪しは別としても当地ではその選択肢すらありません。

こうして教育の地域格差が広がり、それは確実に所得格差に繋がります。地域を発展させるのも衰退させるのも人です。将来を担う子供たちの環境をもう少し整えてあげたいと思いました。

糸魚川市大野

樋口一三

3. バリアフリー及びユニバーサルデザインの推進について

◆キーワード① 【ユニバーサルデザイン】

8月25日発行の「広報いといがわおしらせばん」の「日本語セミナー受講生募集」の記事全体にふりながら振ってあります。これもユニバーサルデザインであります。



この例を見てみると、フリガナが必要な人たちが広報の対象者の中にいることは認識している。しかし、その人たちを対象とした特定の記事以外には「ユニバーサルデザイン」の考えが行き届いていない、単に対象者に理解してもらおうためにふりがなを振っただけなのか、又は、考えてはみたけれども「そこまでは必要ないだろう」ということなのか。

「ユニバーサルデザイン」の思想から出た対策ではないでしょうか。

※「ユニバーサルデザイン」とは

バリアフリー概念の発展形であり、「文化・言語の違い、老若男女といった差違、障害・能力の如何を問わずに利用することが出来る施設・製品・情報設計（デザイン）」をいいます。

◆キーワード② 【バリアフリー】



介護施設に入所している家族を車いすで外食に連れて行きたくても、可能な場所が少ない。バリアフリーを推進するためには民間への何らかのてこ入れが必要であると思います。今後検討するそうです。

私たちがいざれ行く道

84歳になる姑は、車いすの生活をしています。

外出をする度に思うことは、スロープなどができているバリアフリーのお店が少ないことです。

特にトイレは、大きなバリアです。健常者にとっては洋式であれば満足ですが、段差があったり幅が狭く車いすを通すのが困難だったり、目の前にある洋式トイレに腰を下ろすまでの道のりの長いこと！

いま、催し物を見学するならば「きららホール」、食事をするなら親不知の「漁り火」位だと思えます。

皆さん、何か情報があったら教えてください。情報提供のシステムも不足していますよね。

「私たちがいざれ行く道」

高齢者、障害者に優しい糸魚川市づくりをお願いします。

糸魚川市須沢

山田よし子

文教民生常任委員会
市外調査レポート

〇とつぷさんて大洋

茨城県鉾田市（旧大洋村）

◇調査目的 健康づくり



幸運にも、石津政雄氏に直にお話を聞くことが出来ました。先頭に立って健康づくりを推し進めてきた元村長さんは、後述の経歴を持つ元学者さんで、現在はNPO法人理事長や大学、大学院の先生を務めています。話術にも長けていて、充実した2時間となりました。

- ・健康づくりへの取組の経過
- ・寝たきりになる原因
- ・医療費抑制の効果
- ・水中運動プールの設計

などについて説明を受けました。糸魚川市の健康づくり計画に活かしていきたいと思えます。

石津政雄氏

財団法人大洋健康づくり財
団理事

NPO法人日本地域健康支
援機構 理事長

旧大洋村村長
日本大学大学院 客員教授

東京医科大学 客員講師
昭和63年9月に東京大学教

養学部教授(教育史・スポ
ーツ史専門)から転じて大

洋村村長選に当選
人口1万2千人で年間予算

19億円弱の村を4、5年後
に45億円規模に。

○千葉県流山市

◇調査目的

福祉有償運送について

糸魚川市でも、この10月1日よ
りサービスが提供されている福祉
有償運送について、今後の課題を
探ってきました。NPO法人「流
山ユー・アイネット」の米山代表
が同席していただけだったので、

色々と話を聞
くことが出来
ました。現場
の生の声は、
説得力があり
ました。



○千葉県八千代市

◇調査目的

滞納者対策、収納率向上に ついて

八千代市では、「滞納整理の進
め方」と手順書を作成し、

1. 徴収職員の内構え

2. 市税の滞納理由

3. 八千代市市税滞納整理業務図

4. 業務の説明

1 折衝を図るための工夫

2 折衝を図るための調査

3 分割納付(分納)

4 財産調査

5 差押

6 交付要求と参加差押

7 執行停止

というふうには、詳細に考え方と段
階を追っての対応を定めています。

糸魚川市でも課題の一つとなっ
ていて、今年から県の職員の派遣
を受けて滞納対策に取り組んでい
るところです。今後の参考になる
調査でした。



○埼玉県和光市

◇調査目的

介護予防事業について

長寿あんしん課課長補佐
高齢者福祉センター所長

地域包括支援センター所長
東内京一氏(写真)にお話を伺
った。

東内氏は、自らの信念に基づき、
「福祉・保険事業のスクラップア
ンドビルド」に本気で取り組んだ。

従来の「事業を実施することが目
的」という実態から「何のために
事業を行うのか」「結果の重視

政策評価」という方向へ転換を試
みた。当初は役人や現場の抵抗も

大きく苦労したが、現在では一つ
の方向を向いて進んでいるよう
である。

大洋村でも、寝たきりの原因は
「転倒・骨折」が多いといわれて
いたが、和光市ではそれに「関節
の病気」と「高齢による衰弱」を
加えた「**廃用症候群**」(「生活不活
発病」と呼ぶ人もいる)が大きな
割合を占めると指摘があった。

国の委員も勤める東内氏の丁寧な
説明により、今後の糸魚川市の健
康づくりを考える上で、大いに参
考になりました。

介護保険事業と健康づくり事業
を合わせて行っている形が新しく
感じられました。

糸魚川市でも「部制」を採用し、
各課横断的な事業推進を考えてい
ますが、和光市では、正にそれが
行われていました。



編集後記

先日、小谷から笹ヶ峰へ紅葉を
見に行ってきました。八月にも同
じルートを走ったのですが、その
時は目の前を小熊が横切って行き
びっくりしました。小熊がいれば
当然親熊も近くに居るはずなので、
慌ててその場を離れました。

でも今回は動物の気配が感じら
れず、少し拍子抜けでした。もっ
とも、山に木の実が少ないから里
に出てきている訳で、山で見ない
のは当然でしょうか。

熊は人間にとって大変危険な動
物ですから、見つかるやすぐに撃
たれてしまいます。私は動物愛護
家ではありませんが、「熊射殺」
という記事を見ると悲しい気持ち
になります。奥山に食料になるも
のが豊富にあれば人里に現れない
訳で、我々にも何か出来ること
があるのではないのでしょうか。

ところで、うちの後援会は活発
で和やかな会ですので、皆さんも
一緒に活動してみませんか。

編集委員 伊藤信太郎

後援会連絡先▼56212121

伊藤の考え (シリーズ再開)

○行政(市民サービス)の付加価値

企業であれば、一つの資金投下で複数の効果を得ようとするのは当然である。

例えば、製造業や建設業に於いて

安全確保のための資金投下では、安全を確保することとその対策施策により作業効率のアップを図ることは、どの企業でも考える。

逆に安全対策を簡単に実施できることと、それにより作業効率が上がるようであれば、継続的・効果的に実施していくことができない。

この場合の作業効率のアップを安全対策に伴って発生した「付加価値」という。

今、糸魚川市に於いて資源回収に対する補助金が打ち切れようとしている。今回の平野久樹議員の一般質問に対して「その分は、教育費でみます。」という答弁であった。

ここには大きな矛盾が存在する。

当然、財政改革の視点からは、教育費で見る予算は従来資源回収に対して支給された補助金に満たない額であることはある程度やむを得ないことであるが、別の点で教育費と資源回収に対する補助金には大きな違いがある。

支出として同じという観点で見た場合、元々の資源回収に対する補助金には幾つかの付加価値があり、教育費に振り替えることで、その付加価値を捨ててしまうということである。

その付加価値とは、

- ①資源回収が確実に行われる。
- ②市民参加の土壌がそこにある。(市民参加の促進)
- ③地域コミュニティー
- ④P T A予算はフレキシブルに使える予算であり、通常の教育予算では計上しにくいものも含まれる。例えば、入学式、卒業式で配られる赤飯や紅白まんじゅうなど。

現状では、補助金が無くなると資源回収をP T Aなどが行わなくなる可能性が高い。そうすると、これらの付加価値が、捨て去られることになる。

また、市の施策としても「総合計画」「行政改革」の重要項目として「市民協働のまちづくり」「市民参加の促進」「市民参画意識の高揚」などと上げられている。

一方では重要な計画の中でこのように言いながら、別の「補助金」の削減では「市民参加意識を削ぐ」ようなことを平気で行っている。施策に横の繋がりが無いのである。

このケースは、それを他の費目で計上するということに大きな矛盾があります。

わざわざ、付加価値を捨て去る方向に進むことはないのです。同じ税金を投ずるのであれば、より付加価値の高い使い方をすべきですし、各施策が横断的に検討されて実施されるべきです。

「何のために部長制をひいたのか」ということです。

○中学生への話

今年(H18)の3月に、青海中学校2学年全員を前に「地域の人に学ぶ」シリーズの最終回で、「地域の親として子ども達に望むこと」「地域の企業が必要とする人物」というテーマで、企業人として話をさせていただいた。

その時に3つのキーワードを上げて話をしました。

◆「分」 ◆「公共」 ◆「覚悟」

このうち、今回は**中学生の「分」**について取り上げてみます。

◇中学生の「分」

人生の中で、成長に応じ、修行の過程に応じて「分」があり、当然変化する。

- | | |
|----------------|----------------------|
| ①人生の過程、段階での「分」 | 小学生、中学生・・・、社会人 |
| ②一つの世界の中での立場 | 会社の役職、学校での学年、部活の先輩後輩 |
| ③お互いの関係 | 師弟関係、教師と生徒、親と子、兄弟 |

中学生の「分」とは何か。

一人前の人間に成長するために

- | | |
|--------------|---|
| ①親(社会)の庇護の元で | } 人間(人格)形成の重要な段階
= 「修行中の身」
= 一人前ではない ということ |
| ②勉強(学習)し (知) | |
| ③道徳心を養い (徳) | |
| ④体を鍛え (体) | |
| ⑤友達と関わり友情を育む | |

そして、中学生生活の3年間は、人生の大切な「二度と戻らない時間」なのです。中学生の感想文を読むと、「自分は一人前だと勘違いしていた」と書いていた生徒が多くいました。「分」という考え方は、全くと言っていいほど彼らの頭の中にはなかったようです。これは誰の責任でしょうか。親の責任であり、社会全体の大人の責任です。

「分」をわかまえることにより、今何をなすべきかがはっきりしてきます。何をしなければいけないか、何をしてはいけないかが次第に明確になります。

「〇〇君の家ではいいのになぜうちでは駄目なの?」「誰にも迷惑を掛けないからいいじゃない」といった屁理屈に終止符を打つことが出来るでしょう。

「今の時間が大切」だから、「今を楽しく生きたい」という考え方がありますが、「人生は一度しかない」「時間は二度と戻らない」ということを考えてみると、「楽しい」「楽しくない」だけで人生を語ることは出来ません。

成長した自分が人生を振り返った時に「後悔しないで済む人生、(ある程度)満足できる人生」を送るためには「向上心」が大切です。そして、それには「我慢」ではなく「辛抱」することが大きな意味を持ちます。

「辛抱」 環境の苦しさには押し流されないで、向上心を持ち続けること。
「我慢」 精神的・肉体的に苦しい事があっても、意地で凌(シノ)ぎ通し、弱音など吐かないこと。

こうして、修行の段階では「辛抱」をし、向上心を持って努力を重ね、人格を形成して、社会で必要とされる人材になって欲しいと願います。